



東京都  
西池袋  
TKデンタルクリニック

武末 秀剛  
先生

今回のアイテム

## ポーセレン／セラミックポリッシャー

# 滑沢かつ光沢あるセラミックの表面性状を容易に獲得

筆者は日常臨床においてチェアサイドCAD／CAMであるCERECを頻繁に使用しているため、ほぼ毎日の診療においてオールセラミック修復を行っている。

オールセラミックといっても種類は多様化しており、長石系のものやリユースイト強化型のガラスセラミック、IPSe・maxに代表されるような二珪酸リチウム、さらに以前はコーピングとしてのみ使用していたジルコニアも昨今においては多くのメーカーからフルカウンターのクラウンなども提供されている。

それぞれに一長一短があると筆者は考えているが、すべてにおいて共通するのは表面がしっかりと研磨してある必要がある」ということである。これは審美性という面においてのみならず、機械的強度の面からまた、対合歯に与える影響と言う観点からも我々術者が最も重視すべき事項と言っても過言ではないと考えている。

Kerrのポーセレン／セラミックポリッシャーはフレイム、カップ、ミニポイントの3種の形状を備えた3ステップ(グリーン・グレー・ピンク)のセラミック専用研磨システムで、筆者も大変

重用している。

特筆すべきはそのポイントの柔軟性である。インレーの溝の深い部分や隣接部の鼓型空隙など、従来のものではなかなか届きにくい部分にまで密接することで、セラミックならではの本来の滑沢かつ光沢のある表面性状を容易に獲得することが可能となっている。

3種類ある形状の中でも筆者が特に用いるのはカップ型のタイプである。インレーのメリハリを際立たせるために大切となる裂溝の深い部分への研磨の到達はこのカップ型のエッジ部分以外では困難であり、また、咬頭全体の研磨

の場合はカップの内面をやや強めに圧接することで他の研磨ポイントとは比較できないほど広範囲の面積に対して効果的に研磨が可能で、時間の大幅な節約にもつながっている。

3ステップのうち、最初のグリーンのものは切削力がやや高い傾向にある。さほど荒くない表面状態に対して研磨を行う場合には、グリーンをスキップしてグレーからスタートし、ピンクで最終研磨とする2ステップと簡素化することでさらに短時間で効果的なセラミックの研磨を行うこともできると考えている。



1.術前の様子。左下6番メタルインレーの下に二次カリエスを認める。



2.同日、セレックにより作製したセラミックインレーをセット。咬合調整の後、グリーンのカップによる粗研磨。



3.その後、グレーのカップを用い、インレーの裂溝はカップのエッジで、広い面はカップ内面をやや強めに圧接し研磨。



4.ピンクのカップを用いて最終の仕上げ研磨を行う。



5.全ての研磨後。細かい裂溝に至るまで効果的に研磨が出来ている様子が分かる。